

2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [勝山市立荒土小学校] 担当教諭名 [布目 啓介] (6年 17名)

相手国・地域 [台湾]

海外学校名 [Ying-Qiao Elementary School] 担当教諭名 [Ajen Lin]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習	伝えよう 広めよう 私たちのふるさと	22
	外国語	This is me! How is your school? Let's go to Italy! We all live on the earth.	16
	図画工作	壁画を描こう	4

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	新型コロナウイルス感染症について考えよう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	現在、世界で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症の予防や収束は世界中みんなの願いである。その中で、自分たちは何ができるか、何を考えていかなければならないかという思いを壁画に込めた。「医療従事者・感染者への差別撤廃」「これからの教育のあり方」「国際協力の大切さ」この3つにテーマを絞り壁画を制作した。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
外国人とコミュニケーションすることに抵抗を感じなくなってきた。クラス内にとどまらず、外国の人たちにも堂々と自分たちについて伝えられるようになった。この経験は、児童にとって大きな財産になると感じた。	双方の年間行事が合わないため、摺り合わせていくことが大変だった。ギリギリまで予定が合わなかったこともあり、その日に授業を変更することもあった。また、英語でのメールだと十分に伝わらない部分もあったため、児童を混乱させてしまったこともあった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
世界に視野を向けて考える児童が増えた。他教科での発表でも、以前までは日本だけで考えることが多かったが、「外国でもこうだ。」「台湾はこうだった。」と意見を言う児童が出始めた。アートマイルの経験が他教科に広がっている。	日本(私)の ICT 教育・英語教育の遅れを強く感じた。こちらは画用紙でポスターを作って発表するものが主であった。一方、相手校は動画編集を行い、流暢に英語で発表をしていた。これらの違いから、これからの英語教育・ICT 教育の重要性を再認識した。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	<ul style="list-style-type: none"> 台湾のことを調べ、それらを新聞としてまとめた。 5年生で学習したことを振り返りながら、自己紹介や地域紹介の内容を考えた。その後、相手校とオンラインでやりとりを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> これから台湾の小学生と交流しているという姿勢が見られた。 外国の人と交流するという不安を感じながらも相手のことを知りたいという様子が窺えた。 	総合3 英語9
共有 テーマ学習	7月 8月	<ul style="list-style-type: none"> インターネット・地方新聞・地域の商業施設などの現地調べを行い、新型コロナウイルス感染症や感染予防の現状について学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> 半年間で生活様式が変化したことや新型コロナウイルス感染症での差別が蔓延していることを知った。 	総合6
融合 メッセージ作成	9月 ～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが調べたことを相手校に発表し、相手の発表を視聴した。 これから自分たちは新型コロナウイルス感染症とどう向き合い、どういふ世界にしていけばいいかを考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを正確にわかりやすく伝えようと頑張る様子が窺えた。また、台湾の情勢を知り、日本と台湾との共通点や相違点を考えることができた。 差別をなくしてみんなが笑顔で過ごしていくことが大事であり、偏見をもつ前に、その物事について調べ、判断することが大切だという結論に至った。 	英語7 総合6
創造 壁画制作	12月 1月	<ul style="list-style-type: none"> 壁画に描きたい図案を一つ学級で決めて、相手校に送った。そして、相手校も一つ付け足していく形を繰り返して、壁画を仕上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 徐々に自分たちの思いが形になっていくことがうれしいうで意欲的に取り組んでいた。また、相手校の考えをアレンジしてよりよいものにしていくという姿勢も見られた。 	総合6 図工4
評価 振り返り 自己評価	2月	<ul style="list-style-type: none"> 一年間の振り返りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界にはたくさんの課題があり世界中の人たちみんな考えなければならぬといった考えや、協力して何かを完成させるのはおもしろかったと感想をもつ児童がたくさんいた。 	総合1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	台湾の人と交流するという明確な目的があるため新聞作りや英語の発表は、通常の授業よりも意欲的に取り組んでいたと感じる。また、やりとり後も自主的に台湾について調べて来る児童もいた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	2	相手の英語力や動画編集のすごさに圧倒されてしまい萎縮してしまったように感じた。また、信頼関係が十分に築けていなかったためこちらのデザインの方がよいと主張する様子はなかなか見られなかった。
主体的に考え行動する力	4	英語でのやりとりをする場面では、自分たちの思いや内容をどうすれば伝わるのかを考える様子が窺えた。日本人同士や気心知れた友達同士では、英語でのやりとりの際、どうしても甘えが出てしまう。しかし、生の外国人とのやりとりではそうはいかないため、より主体的に活動していたのではないかと考えている。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	2	小学校の英語では、どうしても主体的にコミュニケーションをとることが難しいため、教師の支援が必要であった。そのため、教師間で折り合いをつけてしまう場面も多く、協働することは楽しいと感じながらも力になったかは疑問が残る。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	3	壁画のデザインを考える中で世界中のみんながわかる絵にするためにどうすればよいか議論する場面では、相手意識をもって壁画を考えている様子が窺えた。